

## 川崎医療福祉大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2021年度>

<改善報告書検討実施年度：2025年度>

川崎医療福祉大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の是正勧告及び4点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

### <改善に向けた大学全体の取り組み>

大学評価の結果を踏まえて内部質保証体制の見直しを行い、2023年度に内部質保証の推進に責任を負う組織である「内部質保証推進委員会」を新たに設置し、点検・評価活動を統括する「自己点検・評価委員会」やIR機能を持つ「調査企画室」も含めて大学全般の内部質保証の取り組みを確認する体制としている。各指摘事項の改善にあたっては、各学部・学科のほか各委員会や「調査企画室」等による所管を定めて検討・対応しており、その体制の適切性については「内部質保証推進委員会」が点検・評価を行っている。このように、本協会からの提言やその他課題に対する改善を行うため「内部質保証推進委員会」を中心とした体制を整備し、大学全体で取り組んでいる様子が見てとれる。ただし、内部質保証に関する各委員会の役割分担の明確化など、整備した体制を更に実質的に機能させるための工夫が望まれる。

### <是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいがたい。

是正勧告については、学生の受け入れにおける学部の定員管理の問題に関して、引き続き是正を図る必要がある。

改善課題については、内部質保証の推進に責任を負う組織によるマネジメントが適切に実施できていない問題、一部の研究科・専攻における教育課程の編成・実施方針に関する問題、学生の受け入れにおける大学院の定員管理の問題に関して、今後も更なる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

### 1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受け入れ

## 川崎医療福祉大学

<p>提言（全文）</p>	<p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、医療福祉学部で0.89、同医療福祉学科で0.56、医療福祉マネジメント学部で0.60、同医療福祉経営学科が0.57、同医療情報学科が0.59、同医療秘書学科が0.65、同医療福祉デザイン学科が0.56と低い。また、収容定員に対する在籍学生数比率について、医療福祉学部が0.85、同医療福祉学科が0.57、医療技術学部健康体育学科が0.85、医療福祉マネジメント学部で0.59、同医療福祉経営学科が0.60、同医療情報学科が0.59、同医療秘書学科が0.65、同医療福祉デザイン学科が0.49と低いため、学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。</p>
<p>検討所見</p>	<p>内部質保証体制の見直しにより、学長の直下に置いた「調査企画室」のシミュレーション結果に基づき、「大学運営委員会」が組織改編等を検討し、2025年度から医療福祉学部子ども医療福祉学科を「医療保育学科」へ、医療福祉マネジメント学部医療情報学科を「医療データサイエンス学科」へ、それぞれ名称変更したほか、2026年度には医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科の募集停止、同医療秘書学科を「医療コミュニケーション学科」へ名称変更することの進捗を進めている。また、学生にとっての魅力を高めるべく、各学部・学科において新たな制度やコースを導入しているほか、多様な評価方法での入学者選抜の実施、学外入試会場の見直し、入試広報担当（専任）の配置による広報活動の強化などに取り組んでいる。</p> <p>しかしながら、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、医療福祉学部で0.53、同医療福祉学科が0.38、医療福祉マネジメント学部で0.31、同医療福祉経営学科が0.22、同医療データサイエンス学科が0.32、同医療秘書学科が0.34、同医療福祉デザイン学科が0.36と低く、収容定員に対する在籍学生数比率についても医療福祉学部で0.47、同医療福祉学科が0.34、医療技術学部健康体育学科が0.86、医療福祉マネジメント</p>

## 川崎医療福祉大学

		<p>学部で 0.26、同医療福祉経営学科が 0.17、同医療データサイエンス学科（2024 年度まで医療情報学科）が 0.29、同医療秘書学科が 0.26、同医療デザイン学科が 0.37 と低いため、引き続き学部の定員管理を徹底するように是正されたい。</p> <p>なお、大学評価時には提言の対象ではなかったが、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、リハビリテーション学部理学療法学科が 1.28、医療技術学部診療放射線技術学科が 1.28 と高く、学士課程全体で 0.75、医療福祉学部臨床心理学科が 0.79、同医療保育学科（2024 年度まで子ども医療福祉学科）が 0.54、リハビリテーション学部視能療法学科が 0.80、医療技術学部臨床工学科が 0.71、同臨床栄養学科が 0.66、同健康体育学科が 0.85 と低くなっており、収容定員に対する在籍学生数比率についても、リハビリテーション学部理学療法学科が 1.30、医療技術学部診療放射線技術学科が 1.28 と高く、学士課程全体で 0.71、医療福祉学部臨床心理学科が 0.71、同医療保育学科が 0.45、リハビリテーション学部視能療法学科が 0.69、医療技術学部で 0.89、同臨床工学科が 0.63、同臨床栄養学科が 0.57 と低くなっていることから是正されたい。</p> <p>以上のことから、医療福祉学部、同医療福祉学科、医療技術学部健康体育学科、医療福祉マネジメント学部、同医療福祉経営学科、同医療データサイエンス学科、同医療秘書学科、同医療福祉デザイン学科の定員管理については、次回大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。</p>
--	--	---

### 2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準 2 内部質保証
	提言（全文）	各学部・研究科等が点検・評価やその結果に基づく改善・向上の取り組みを行うにあたり、「自己点検・評価委員会」はその内容を確認するとどまっ

川崎医療福祉大学

		ており、「自己点検・評価委員会規程」に定めている教育研究活動全般を点検し、改善を要する問題点と評価すべき特色を評価し、今後の方向等を十分に検討していない。内部質保証の推進に責任を負う組織としてこれらのマネジメントを適切に実施しているとはいいがたいため、改善が求められる。
	検討所見	<p>前回の大学評価における提言を受け、PDCAの流れや各組織の役割を見直し、内部質保証体制を改善した。また、2024年度より、自己点検・評価チェックシートを作成して、IRデータに基づく自己点検・評価を開始し、自己点検・評価委員会によるフィードバックも行われている。ただし、新たに設置した「内部質保証推進委員会」は、規程上「自己点検・評価委員会と連携し、継続的・組織的に点検・評価を実施する」とあるが、自己点検・評価委員会との役割の違いがわかりにくく、また、同じく規程において「点検・評価結果については、大学運営委員会に諮り・・・」とあるが、本改善報告書には「各マネジメント組織の検証責任者(副学長)は、自己点検・評価委員として委員会で検討した後に、その結果を大学運営委員会に提出する」と書かれており、規程と報告内容に齟齬が見られることについては、再度検証が求められる。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言(全文)	<p>教育課程の編成・実施方針について、医療福祉マネジメント学研究科では医療情報学専攻を除く全ての専攻において、教育課程の編成・実施方針に教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>医療福祉マネジメント学研究科では、大学院の定員充足に向けた取り組みを進めるため、基礎となる医療福祉マネジメント学部も含めた組織変更を検討していた。これにあわせて各専攻の教育課程の編</p>

川崎医療福祉大学

		成・実施方針を包括的に見直すこととしていたが、結果として大学院の改組を見送ったため、教育課程の編成・実施方針の検討開始が遅れ、現時点で対応が完了しておらず、2026年度の改正に向けて調整を進めている段階にある。教育課程の実施に関する基本的な考え方を示すことができていないため、引き続き改善が求められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	収容定員に対する在学学生数比率について、医療技術学研究科修士課程で0.37、医療福祉マネジメント学研究科修士課程では0.47と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	<p>全学をあげて学生募集の取り組みを推進するため、「自己点検・評価委員会」が各学科・専攻の学生確保の活動実績を抽出し、成果が上がっている取り組みを「学科長・専攻主任会議」で事例紹介するなどしている。このほか、2022年度から修士課程で推薦枠の創設、2024年度から教育職員の「在職進学制度」の見直し、2025年度から秋学期入学制度の導入など、学生確保に向けた取り組みを行っている。</p> <p>しかしながら、収容定員に対する在籍学生数比率について、医療技術学研究科修士課程が0.42、医療福祉マネジメント学研究科修士課程が0.23と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、引き続き改善が求められる。</p> <p>なお、大学評価時には改善課題ではなかったものの、医療福祉マネジメント学研究科博士後期課程では在籍者がいないため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。</p>
No.	種 別	内 容
4	基準	基準6 教員・教員組織
	提言（全文）	教育改善に関する大学院固有のFDが医療技術

川崎医療福祉大学

		学研究科健康体育学専攻を除き行われていないため、修士課程・博士後期課程全体又は各研究科として、適切にこれを実施するよう、改善が求められる。
	検討所見	2022年度以降、修士課程及び博士後期課程の指導教員と指導教員補佐を対象とした「大学院FD研修会」(教育研究に関する研修会)を実施しており、改善が認められる。今後も継続的に実施するとともに、更に参加率を高めることが望まれる。

<再度報告を求める事項>

是正勧告No.1については次回の大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準2「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	有 (改善課題)	×
イ) 基準4「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	無	—
ウ) 基準4「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	無	—

以上